

# 北灘ワンデリング大会

令和4年10月30日（日）、北灘地区自治振興会主催の「北灘ワンデリング大会」が開催されました。

板東俘虜収容所のドイツ兵が、1919年1月頃から10月の間に北灘町を遠足の名目で約50回以上訪れ、アジアで初開催となる折野を起点とする競歩大会や、夏場には大須と櫛木で海水浴や水泳大会を行ったことが収容所新聞「デイ・バラック」に記されており、北灘地区自治振興会では、この事跡を参考に北灘町の振興活性化に結び付ける事業の一環として海水浴や水泳大会を行なった櫛木浜を起点にした「北灘ワンデリング大会」を開催し、今回で7回目の大会となりました。

板東俘虜収容所のドイツ兵がこよなく愛した北灘の海と山の自然の中を感じる往復7.6kmのコースを歩き、100年前にタイムスリップしたような気持ちで、歴史を感じながら、皆さん良い汗をかいていました。



集合場所の櫛木浜 八幡神社



北灘地区自治振興会  
上原会長の挨拶



ドイツからの国際交流員  
ダリオさんも参加



国連が2030年までの目標として掲げる持続可能な社会を実現するためのSDGsゴール14「海の豊かさを守ろう」を中心に賛同し、海の環境美化の啓発した大きなタペストリーや、これまでのワンデリング大会の写真も展示されました。



準備体操をして、  
さぁスタートです！！



皆さん、ゆっくりと  
自然を楽しみながら  
歩いていました♪